

令和4年度

報告書

庶務報告

会員数

令和4年4月1日現在	308名
令和4年度入会者	10名
令和4年度退会者	19名
令和5年4月1日現在	299名

令和4年度入会者

中野俊久（別府中央病院）
入江文彦（別府湾腎泌尿器病院）
井上邦光（中村病院）
西宮実（石垣病院）
宮崎貴志（国家公務員共済組合連合会新別府病院）
播広谷勝三（九州大学病院別府病院）
丸尾健太郎（国家公務員共済組合連合会新別府病院）
山本侑季（山本病院）
重見愛華（山本病院）
松本千尋（自宅会員）

令和4年度退会者

森田隆（死亡）
市村誉（国家公務員共済組合連合会新別府病院）
長岡博志（農協共済別府リハビリテーションセンター）
吉賀一（死亡）
濱崎清利（国家公務員共済組合連合会新別府病院）
岩永成晃（自宅会員）
石川晃（死亡）
池田正仁（村橋病院）
西宮実（石垣病院）
亀川隆久（清瀬病院）
内田仁（農協共済別府リハビリテーションセンター）
向山恵子（山本病院）
秋永秀孝（死亡）

三吉野 産 治 (死亡)

児 玉 俊 一 (死亡)

今 泉 雅 資 (国家公務員共済組合連合会新別府病院)

甲 斐 博 宜 (別府湾腎泌尿器病院)

黒 木 友希実 (自宅会員)

堀 内 孝 彦 (九州大学病院別府病院)

会 議

臨時總會	1回
定時總會	1回
定例理事会	24回

別府市医師会（令和4年度第1回）臨時總會

令和4年4月8日（金）臨時總會

第1号議案 令和4年度会費賦課徴収金額の件他5件

一般社団法人別府市医師会第76回定時總會

令和4年6月24日（金）

第1号議案 令和3年度別府市医師会決算の件他1件

定 例 理 事 会

第1回理事会 4月6日（水）

別府市医師会看護学生奨学金給付規定について他14件

第2回理事会 4月20日（水）

旧施設解体にともなう設計事務所との契約について他18件

第3回理事会 5月11日（水）

医師会の共同研究に関する手順書について他9件

第4回理事会 5月25日（水）

半導体不足による健診機器の更新について他11件

第5回理事会 6月8日（水）

『別府市制100周年記念事業実行委員会委員（仮称）』の推薦について他14件

第6回理事会 6月22日（水）

別府市医師会看護学生奨学金給付候補について他10件

第7回理事会 7月6日（水）

別府地域保健委員会委員の推薦について他18件

第8回理事会 7月20日（水）

発熱外来の手当について他17件

第9回理事会 8月3日（水）

市議会議員との意見交換会について他10件

第10回理事会 8月17日（水）

濃厚接触者の待機期間と解除時の検査について他11件

第11回理事会 9月7日（水）

大分県東部地域医療構想調整会議委員への就任について他10件

第12回理事会 9月21日（水）

年末・年始の救急医療体制（在宅当番医）募集について他5件

- 第 13 回理事会 10 月 12 日（水）
 別府市医師会忘年会・新年会について他 8 件
- 第 14 回理事会 10 月 26 日（水）
 年末年始の在宅当番医について他 2 件
- 第 15 回理事会 11 月 9 日（水）
 オンライン資格確認について他 6 件
- 第 16 回理事会 11 月 30 日（水）
 准看護学科および 2 年課程看護学科の閉科式開催について他 16 件
- 第 17 回理事会 12 月 14 日（水）
 少額減価償却資産の購入について他 7 件
- 第 18 回理事会 12 月 28 日（水）
 在宅当番医制度の在り方検討委員会について他 8 件
- 第 19 回理事会 1 月 11 日（水）
 特別手当について他 6 件
- 第 20 回理事会 1 月 25 日（水）
 後援・共催内規について他 14 件
- 第 21 回理事会 2 月 1 日（水）
 講師謝礼内規について他 14 件
- 第 22 回理事会 2 月 15 日（水）
 旧施設解体及び医師会館改修工事の施工業者選定について他 22 件
- 第 23 回理事会 3 月 1 日（水）
 新型コロナウイルス遺伝子増幅検査及び集配での東部保健所 P C R
 検体回収業務の終了について他 9 件
- 第 24 回理事会 3 月 15 日（水）
 ゆけむり医療ネットへの薬剤情報提供サービス追加について他 10 件

事業報告

令和4年6月24日、第76回定時総会を開催し「令和3年度別府市医師会決算の件」が承認された後、矢田公裕先生が平成28年6月より3期6年間務められた会長職を退任され、監事の岡田豊和先生が新たに会長に就任し、副会長の交代も含めて新執行部が発足した。

令和4年度に予定された事業は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により中止・延期となった行事もあったが、webによる開催、出張に代わるweb参加など、コロナ禍以前と比較して制限された面はあったものの必要性及び優先度の高い事業については予定どおり遂行できた。

総務部門では、夏のレクリエーション、速見郡杵築市医師会・国東市医師会との懇談会、下関市医師会との親善スポーツ大会、メディカルセミナー、三師会合同役員会、忘年会、新年会など懇親会をとまなう事業が中止となったが、学術事業についてはweb配信と出席者を制限した会場参加によるハイブリッド型を基本として年6回開催することができた。

地域保健センターは、昨年度に引き続き別府市から委託された新型コロナウイルス遺伝子増幅検査（LAMP法）を職種に関係なくスタッフ全員が土日祝日なく輪番制で業務にあたり、新型コロナウイルス感染症の第7波から第8波による混乱期をワンチームで何とか乗り切り大幅な収益を上げることができた。通常の健診業務においても、従来の特定健診のデータ入力に加え、個別医療機関における各種がん検診の結果データの入力業務も行うようになり業務量は前年度に比して増大したが、これによりがん検診の結果データもスマートフォンで確認できるようになる見通しであり、PHRの有効的な活用が期待される。

看護教育では、全日制3年課程の「別府市医師会立別府青山看護学校」が開校し1回生35名が入学した。2年課程は募集を停止したため在學生は2年生と3年生のみとなり、令和5年度までは2年課程と3年課程の學生が混在する移行期となるが、ハード面の新環境として整備した母子在宅実習室や休憩室（ラウンジ）、更衣室、講師室、面接室が供用開始となり、ソフト面でも全館Wi-Fi整備の結果、授業においてタブレットによる電子テキストの使用が可能となった。昨年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修及び実習の一部中止や延期に加え、陽性者及び濃厚接触者となる學生が断続的に発生するなか、自宅や別室からのオンライン授業の形態を取り入れるなど、學生の健康管理には細心の注意を払い工夫しての運営を余儀なくされたが、第112回看護師国家試験には、新卒者（35回生）の全員が合格した。

地域福祉部門は、関係会員と職員の尽力にも関わらず、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、ヘルパーステーション3部門総じて利用状況は昨年度に比較して減少しており、従事する職員の離職が相次ぐなど慢性的な人員不足による脆弱な管理体制が影響し減収減益となった。令和5年度からは新たに入職した主任ケアマネージャーが3部門を統括することとなり、収支改善のためには、後継者の育成も含め中長期的な見通しに基づく管理体制の立て直しを図る一方、地道に新規利用者数を増やしていく努力が今まで以上に必要であるが会員の先生方には、より一層の利用についてご協力をお願いしたい。

なお、事業遂行の詳細については、各部門の報告をご参照して頂きたい。

〈総 務 部〉

庶 務

令和4年4月8日、令和4年度第1回臨時総会を開催し「令和4年度事業計画」と「令和4年度予算」を報告した。同時に6月の定時総会終了後より就任する次期役員等の選出を行い、新たに岡田豊和先生を会長に選出した。この他、副会長には川本洋先生、常富亘人先生、新たな理事として下山信夫先生、財前博文先生、松井祐治先生が選出された。

令和4年6月24日に開催した第76回定時総会では「令和3年度決算」が承認され、矢田公裕先生が3期6年にわたる会長職を退任した他、金馬義平副会長、平川雅和理事が理事職を退任することとなった。

会長・両副会長の交代により執行部の顔ぶれが変わったことにもない、理事の担当業務も一部変更があり、別府市や大分県医師会等、関連団体から推薦依頼のある各種委員についても理事会にて人選を協議検討し、適宜新委員を選出した。

令和4年度の入退会については入会10名、ご逝去6名を含む退会は19名、全体の会員数は約300名を推移しており300名を維持できるかどうかの瀬戸際にある。現在、別府市医師会が選出している大分県医師会の代議員数は7名であり、大分県医師会定款施行規則によれば300名を切ると代議員数は1名減の6名となり、現状のままでは大分県医師会内における別府市医師会の発言力も総じて弱まることが想定されることから、今後は臨床研修医を含めた卒後5年間の若手医師に対しては会費減免というメリットを前に出すほか、基幹病院に勤務する非会員の医師への入会働きかけを強化し、会員数を増やしていく努力が必要となる。

事業に関しては、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のために、変更や縮小、中止を余儀なくされた事業も少なくなく、会議についても月2回開催している理事会はそのほとんどがリモート開催となった。大分県医師会や東部保健所、別府市などの行政、関連団体等が主催する会議や講習会等においても、Zoom等を利用したオンライン化が通常となっており、本会でもWebやハイブリッド型での開催を基本として定期的に会議を開催したが、岡田会長の発案による新しい取り組みとして、理事会の開催されない水曜日の午後には、会長、副会長、各部門の担当部長、管理者および関係職員が各部門15分ずつの割り当てで、部門における現状と課題をZoom上で報告し意見交換する機会を設けた。これにより通常の部門会議や運営連絡会という機会を待たずに、理事者による部門の現状の速やかな把握が可能となった。

施設管理の面では、平成28年4月の熊本地震以来、耐震性に問題があることを認識しつつも手つかずであった旧施設の解体に向けて本格的な準備に入った。解体の前提となる解体設計および設備設計については、しげる設計一級建築士事務所に設計依頼し、「旧施設解体及び跡地検討委員会」において設計・工事方法等について順次検討を重ね、設計事務所作成の設計図・仕様書をもとに、市内8社のA級建築業者に見積依頼したところ4社の応募があり、検討の結果、最安値を付けた株式会社平野工務店に解体を依頼することとした。解体工事は本会にとって不可避の難事業であり、騒音や中庭駐車場の停止等もふくめて、役職員・会員・学生・来館者にとって状況は直接的・間接的であるにせよ工事期間中の負担はそれなりに大きく、資金面での支出も非常に大きいため、各事業部門及びそれらを統括する本会の経営および管理状況は相当に厳しくなるが、事業の継続性を担保するためには、経費削減はもちろん、緊張感をもった事業戦略と更なる創意工夫が必要である。

- 令和4年4月8日 別府市医師会（令和4年度第1回）臨時総会
 11日 第2回 旧施設解体及び跡地検討委員会
 5月15日 一般社団法人大分県医師会第221回臨時代議員会
 6月10日 代議員・予備代議員・県医役員合同会議
 12日 一般社団法人大分県医師会第222回定例代議員会
 13日 第3回 旧施設解体及び跡地検討委員会
 24日 一般社団法人別府市医師会第76回定時総会
 8月26日 第4回 旧施設解体及び跡地検討委員会
 9月2日 第5回 旧施設解体及び跡地検討委員会
 30日 第6回 旧施設解体及び跡地検討委員会
 12月2日 新規開業会員との懇談会
 12日 第7回 旧施設解体及び跡地検討委員会
 令和5年2月13日 第8回 旧施設解体及び跡地検討委員会
 17日 第9回 旧施設解体及び跡地検討委員会
 3月10日 郡市等医師会組織強化担当役員連絡協議会

学 術

4月の学術部会において年間予定を協議検討し、通常年7回開催している学術事業については今年度も新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、Zoomを利用したWeb参加と会場参加(医師会館視聴覚室)を併用したハイブリッド型を基本として、年6回の開催を予定した。

4月の学術研修会を皮切りに、7月に2回目の学術研修会、9月に学術講演会、11月に第1回医療安全管理対策研修会、2月に第2回医療安全管理対策研修会、2月末に学術集会を開催したが、県外から講師を招聘しているメディカルセミナーと懇親会については、参加者の安全が担保できないことから、昨年度に引き続き今年度も中止となった。

4月の学術研修会では胃食道逆流症を中心にその診断や内視鏡所見・治療の実際について、7月の学術研修会ではコロナ禍以前に大分県糖尿病臨床医会と共催していた糖尿病に関する講演会がここ数年開催されていないことを鑑み、近年話題となっている糖尿病と心不全の加療を中心にご講演いただいた。

9月の学術講演会では令和4年2月に九州大学病院別府病院整形外科教授に就任された播谷勝三先生に、成人脊柱変形の診断と治療を中心にご講演いただいた。

年2回開催している医療安全管理対策研修会については11月と2月（暴風雪の寒波により1月から延期）に開催し、第1回目は①COVID-19関連、②患者確認、③手術、④検査、⑤投薬の点から診療現場において注意すべき点や想定される危険性の説明、第2回目は令和4年度診療報酬改定に伴う「感染対策向上加算」算定の一助となるように、「感染管理」をテーマに①標準予防策、②VREのアウトブレイク、③クラスター対応の3つを柱に講演が行われ、2回とも実際の現場に即した実践的な内容であった。

2月末に開催している学術集会については、今年度も開催時間を短縮するために演題数を制限し、9題の一般演題と特別講演からなる構成として、開始から終了までを2時間30分とした。特別講演は九州大学病院別府病院外科の三森功士教授に「実装化される未来のがん治療～当院

再開後の取り組み～」という演題でご講演いただいた。近未来の医療として遠隔医療、技術の均てん化、がん細胞可視化、AIの手術適応の4つが示され、講演は遠隔医療とがん細胞の可視化を中心に行われた。講演終了後にDNAメチル化による診断についての質問2つと3D画像についての質問に対して質疑応答がなされた。

今年度の学術事業はすべてハイブリッド開催を余儀なくされたが、今後は、リモートでの制約面を補完するためにも音声や映像の安定的なWeb配信については常に配意しつつ、少しでもライブ感を高めるために効果的な資料（スライド）選定はもちろん、円滑な進行がより重要になってくる。

学術事業は、日々進歩する医学や変化する医療情勢に関する最新の情報を会員に提供することにより、会員のさらなる医学知識の充実とスキルアップを目的としている。研修会・講演会の内容や開催方法などについて、いろいろとご意見をいただければ幸いである。

日時	集会名	テーマ	講師	出席者数
令和4年 4月18日	学術研修会	「胃食道逆流症診療の現状について」	国家公務員共済組合連合会 新別府病院 消化器内科部長 後藤 康彦 先生	会 員 15 名 一 般 2 名
7月25日	学術研修会	「糖尿病と心不全」	大分県厚生連鶴見病院 糖尿病・代謝内科部長 日高 周次 先生	会 員 17 名
9月6日	学術講演会	「成人脊柱変形の診断と治療」	九州大学病院別府病院 整形外科 播広谷 勝三 先生	会 員 20 名 一 般 2 名
11月28日	第1回医療安全管理 対策研修会	「さまざまな診療現場における医療安全」	大分県厚生連鶴見病院 副院長・医療安全管理室長 加賀 明彦 先生	会 員 29 名 一 般 22 名
令和5年 2月20日	第2回医療安全管理 対策研修会	「感染対策の基本」	独立行政法人国立病院機構 別府医療センター 感染管理認定看護師 原 利宝 氏	会 員 30 名 一 般 31 名
2月25日	別府市医師会 学術集会	一般演題「9題」 特別講演 「実装化される未来のがん治療～当院再開後の取り組み～」	九州大学病院別府病院 外科 教授 三森 功士 先生	会 員 28 名 非会員 9 名 一 般 1 名

保 険

令和4年度は診療報酬改定が行われ、①「医療機能や患者の状態に応じた入院医療の評価」、②「外来医療の強化、機能分化」、③「質の高い在宅医療・訪問看護の確保」、④「医療計画の見直しも念頭に新興感染症等に対応できる医療提供体制の構築に向けた取組」、⑤「不妊治療の保険適用」、⑥「情報通信機器を用いた診療に係る評価」の以上6点で検討され、本体がプラス0.43%、うち医科としてはプラス0.26%となった。

また、オンライン資格確認システムの導入に向けての動きが夏ごろから加速され、未導入の場合は療養担当規則違反となる恐れとなるという趣旨の国の発言があり、最終的には例外が認められることとなったが、カードリーダーの機種選択、発注・納品・導入と短い期間で行わなくてはならず、医療機関への負担が増大することとなった。

「新型コロナウイルス感染症」に関する加算も本年5月8日以降の5類移行を見据えて、大幅に変更となった。

院内トリアージ実施料300点は5類移行後も算定可能だが、二類感染症患者入院診療加算は、初診の患者のみの算定や診療枠の拡大や公表が必須となるなどの経緯を経て、令和5年3月1日より250点から147点へと変更され、令和5年4月1日からは算定不能となった。

また陽性患者に対し、処方を行った場合に算定出来ていた「救急医療管理加算」950点も5月8日以降は、コロナ確定患者に対し療養指導を行った場合に147点へと大幅に下がり、入院調整を実施した場合のみに950点が算定できることになるなど、厳しい要件となった。

個別指導は、昨年度より再開されたが、今までどおりと指導の内容に変化はない。カルテへの記載を中心に指導されることがほとんどである。より一層留意し、漏れなく記載を心掛けて頂きたい。

令和4年 7月15日	第1回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会 (Web)
9月15日	個別指導
16日	第2回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会 (Web)
11月18日	第3回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会 (Web)

会 員 福 祉

今年度の会員福祉事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き夏のレクリエーション、下関市医師会との親善スポーツ大会、三師会合同役員会、忘年会、新年会等、懇親会をとまなうすべての行事が中止となったが、懇親会を伴わない行事は徐々にではあるが再開されるようになってきたのは喜ばしい限りである。

会員同士の情報交換や親睦を深める場でもある上記行事の中止が続くことは残念なことであるが、コロナ禍ゆえに普段は意識しない会員同士のヨコのつながりの重要性を再認識することにもなった。

令和3年度以降、ゴルフ部、テニス部、ボウリング部等の部活動に対する補助金については当面の間見送ることが続いているが、各部員の先生方に対しては限られた予算内で工夫して部を運営いただいていることに関して改めてお詫びとお礼を申し上げます。

今後の事業運営に際して会員同士の連携や協力は今以上に必要不可欠でありそのためにも日常からの会員同士の関係構築は重要である。

新型コロナウイルス感染症の第5類への移行にともない行動様式も変わってくることから、ここ数年延期・中止を余儀なくされた会員福祉事業も令和5年度以降は再開できる事業をさらに増やしていきたいと考えており会員各位には再開後の医師会行事への積極的な参加をお願いするとともに、医師会行事を利用することで会員間の連携、病診連携、地域連携構築の一助としていただきたい。

- 令和4年 5月22日 三師会親睦ゴルフ会
- 26日 令和4年度第1回会員のための医業経営セミナー（大分県医師会）
- 8月14日 医療従事者向け資産形成セミナー（大分県医師会）
- 28日 第104回会員親睦囲碁大会（本因坊戦・一般戦）
- 11月3日 三師会親睦ゴルフ会
- 17日 令和4年度第2回会員のための医業経営セミナー（大分県医師会）
- 令和5年 2月16日 令和4年度第3回会員のための医業経営セミナー（大分県医師会）
- 26日 第105回会員親睦囲碁大会（第32回国手杯争奪戦）
- 3月21日 第5回全国医師ゴルフ選手権大会（チャンピオン戦）

広 報

会報委員会において編集会議を行うとともに、会報委員会メーリングリスト（ML）において情報交換を行って議論を重ね、医師会報の充実に努めた。

別府市医師会報は、①医師会の主張と広報、②医師会活動の正確な記録、③医師会員の医療活動への意識の啓発、この3点をめざし、年に4回の発刊を続けている。

「私のお気に入り」では、『私の信頼するジャーナリスト（前編）』（夏季号）、『私の信頼するジャーナリスト（後編）』（秋季号）と題して執筆して頂いた。

「ちょっとお勉強タイム」では、「別府市医師会におけるCOVID-19対策の現状」（新緑号）、「アトピー性皮膚炎、皮膚疾患に対する局所型紫外線療法について」（夏季号）、「COVID-19ワクチン接種後にTINU症候群を発症した症例について」（秋季号）、「コロナ渦中で深刻化した社会、経済的格差から生じた健康格差の問題」（新春号）など診療に直結する身近なことなど幅広く執筆者の方々から問題提起して頂いた。

コロナ禍の影響もあり、会員福祉事業の中止が続いており、それにとまなう報告も誌上掲載できないため、各号の頁数はコロナ前に比して少なくなっており、加えて随筆の投稿も減少してきている。医師会報が会員の先生方への情報提供・共有ツールとしての役目を担い、編集部一同協力して医師会報の内容充実につとめていきたいと考えているので、引き続き、御意見御要望なども含めてご協力をお願いしたい。

- 令和4年 5月12日 夏季号 編集協議会
- 8月2日 秋季号 編集協議会
- 11月10日 新春号 編集協議会
- 令和5年 2月2日 新緑号 編集協議会

医 政

令和4年度には参議院議員選挙が実施され、比例代表区では日本医師連盟の組織内候補で別府市医師連盟が推薦した自見はなこ氏が1期目の得票を上回る213,369票を獲得し、医療界1位の成績で2期目の当選を果たすことができた。

大分県選挙区では医師連盟が支援した新人の古庄はるとも氏が現職の野党候補を破って当選し6年前の雪辱を果たした。

選挙戦にむけては、事前に両陣営より討議資料やポスター等の配布依頼、サポーター名簿の協力依頼、集会等への参加依頼があり、関係する役職員が対応して選挙運動を支えた。

選挙後には自見氏ご本人が別府市医師会館にお礼の挨拶に訪れ、別府市医師連盟として今後も継続して支援していくことを確認した。

日本医師会では、新型コロナウイルス感染症の拡大が医療機関経営に与える影響を把握するために、令和2年3月以降、会員医療機関におけるレセプトデータや損益状況等を継続して調査しているが、調査結果は概要にまとめられ、定例記者会見で公表後、官邸をはじめ様々な場面で医療機関の経営難、医療提供体制が崩壊危機にある現状を訴えている。

診療科によっては、前年度に比べて収益が大幅減となり経営的にも非常に厳しい医療機関が散見されるが、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行後も、国や与党に対して、さらなる医療機関経営への支援を求めていく必要がある。

医師連盟としても、「支援や診療報酬の改定率は最終的には政治で決まる。」ということ念頭に置かなければならないが、そのためには日常から政治にしっかり働き掛けていくこと、組織として一致して取り組んでいくことが必要であり、その積み重ねが診療報酬の改定率に影響してくる。

医療情勢は依然として変化が激しいが今後も、医療・福祉・介護の充実はもちろん、医師会活動をスムーズに進めていくためにも医政活動は重要であり、会員各位の御理解、御協力をお願いする。

会 計

令和4年度正味財産の経常増減（損益ベース）は、全体で約1億1,500万円増額となった。

各部門間の繰り入れを除くと看護学校が約3,364万円減少、地域福祉部門が約538万円減少した。地域保健センターは7,572万円増額、初期救急医療事業は発熱外来診療の診療収入と夜間こども診療に対する別府市の支援によりプラスとなった。

収支では事業活動収支は全体で1億588万円のプラスである。

部門別にいくつかの要点を示す。

本会：事業活動収支は、約1,000万円のマイナス。看護学校二年課程に2,006万円、三年課程に463万円の繰り入れを行ったことが要因であるが、今年度は銀行借入れを行わず次年度に繰り延べることにした。

地域保健センター：健診事業では昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により減収であったが、別府市が運営するPCR検査センターからの検査受託等により大幅に増収し

事業活動収支は1億760万円のプラスであった。

初期救急医療事業：夜間こども診療は新型コロナウイルス感染症による受診控えが影響し大きく減収したが別府市の支援金によりマイナスは避けられた。また臨時的に開設した、発熱外来診療により大幅に増収し、事業活動収支は約2,180万円のプラスであった。

看護学校：二年課程は2学年、三年課程は新入生1学年の運営であったため、運営補助として本会から二年課程に2,006万円、三年課程に463万円の繰り入れを行った。

地域福祉部門：3部門の事業活動収支は、約461万円のマイナス。各部門間の繰り入れを除くと訪問看護ステーションは、約67万円のプラス、居宅介護支援センターは約286万円のマイナス、ヘルパーステーションは約242万円のマイナスとなる。

団体生命保険：今年度は200万円を本会へ繰り入れた。

詳細は各部門の収支明細書に示す。

令和4年6月2日	会計部会
6日	会計並びに業務監査
12月13日	会計部会（部門別予算会議）
15日	会計部会（部門別予算会議）
19日	会計部会（部門別予算会議）
令和5年1月27日	会計部会
2月14日	会計部会

医療情報

平成 17 年度より懸案事項であった会員各施設を NTT の光回線を利用したプライベートネットワーク網が平成 22 年度に完成し、13 年目を迎える。医師会業務システムと地域医療連携システムの 2 本柱である「ゆけむり医療ネット」が本格的に稼働している。インフラ整備としては、令和 4 年度希望する 79 施設のうち 71 施設に光回線を整備している。また、地域医療連携システムでは、新別府病院・別府医療センター・厚生連鶴見病院が急性期医療分野として情報を公開しており、平成 25 年度から九州大学病院別府病院が加わった。地域保健センターも、健診画像データや検査データを二次的に有効活用するため基幹病院同様に地域医療連携システムに公開している。平成 27 年度には「地域医療介護総合確保施設設備整備事業」として薬剤師会と共同で整備し、市内の薬局 67 施設中 65 施設が接続して、院外調剤情報を集積し、「ゆけむり医療 ID」で参照できる仕組みを整えた。4 つの基幹病院と健診・検査センターの情報、院外調剤情報が患者個人の同意の基に共有できるようになっている。さらに東部医療圏（日出町・杵築市・国東市）や在宅医療などへの接続が可能となる仕組みを取り入れ、18 の医療機関にモニターとして参加してもらっている。更に北部医療圏の 2 施設がモニターを希望したため接続している。東部医療圏に所属する医師会とも話し合い、速見郡杵築市医師会と契約を交わし、年間利用料をいただいている。

基幹病院から医師の記録（カルテ情報）が公開されており、退院する際に患者から同意をとり、かかりつけ医へ公開する運用を取り入れ、カルテ参照率が上がってきている。

令和 4 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、活動があまりできなかったが、日本リウマチ学会とファイザーで立ち上げた公募型の医学教育プロジェクト助成に地域連携パス委員会リウマチ班が応募した結果、その助成金で診断未確定リウマチ性疾患の病診連携モデル構築プログラムとしてスマートフォンのアプリケーションソフトを使用した患者主体の関節炎スクリーニングツールが完成した。健診受診者の中で関節痛の症状がある人に、アプリを通じて問診票に答えてもらうと、紹介状が自動的に作成される仕組みとなり、専門医受診の際にその問診票の ID を伝えれば紹介状のデータがパソコン内に表示されるため、患者さんにとっては問診票の記載が不要になり、専門医は紹介状のデータを見ながら必要な分の聞き取りだけで済むようになるため、スムーズな受診が実現できる。令和 5 年 12 月まで実証研究期間となっており、専門のワーキンググループで月 1 回評価と検討をしている。

医療情報システムネットワーク委員会では、国の方針において「全国医療情報プラットフォーム」「電子カルテ情報の標準化」「診療報酬改定 DX」という医療 DX 推進の三本柱との比較においてゆけむり医療ネットの立ち位置についてディスカッションをした。「全国医療情報プラットフォーム」では各種健診・薬情報がマイナポータルから個人で個人のデータを参照できるようになり、医療シーンに応じて医師を始めとする医療従事者へ提供できることから医療の DX 化がはかれるものであり、その国が運用する全国医療情報プラットフォーム（PF）とゆけむり医療ネットの情報項目の比較やデータヘルス改革に関する行程表に伴い各委員へ意見を聞き、ゆけむり医療ネットの情報と重複する部分が多くなれば縮小化も考えねばならず、国の動向をみて移行判断することとなった。

その他では、地域保健センターの健診結果をスマートフォンへ報告する取り組みを開始し、

現在では個別の医療機関で受診したデータも反映できるようになった。個人で健診や薬のデータを管理できる PHR の仕組みづくりを進めていき、自分の意思で各機関に提示することは究極のプライバシー保護につながり、同意書の取得を簡素化したいと考えている。

医師会業務は「ゆのはなメディネット」と名付けられたグループウェアとして閉鎖されたネットワークの特色を生かし、メールや掲示板・ファイル管理機能を使い、個人情報が入ったファイルをメールに添付したり、会員の医療機関と医師会の事務局しか開けないフォルダを医療機関毎に作成し、レセプト代行送信のために医師会に持参しているレセプトファイルを転送するなど効率の良い利用をしている。

インフルエンザ発生状況速報システムは今年で 19 年目を迎える。昨年度と同様に日々の発生分布状況をアニメーションにし、患者数の推移を一目で分かるよう数字化し、流行している地区を一目で判別出来るよう改善を行った。

国の方針によりこれから起こりうる背策の対応や色々な課題も含め、今後も医療の専門家集団として、IT に関しての提案・検討を各部門と一緒に進めていく所存である。

【医療情報システムネットワーク委員会および医療情報委員会】※ Web 会議 (Zoom)

令和 4 年 11 月 14 日 (第 1 回) 12 月 22 日 (第 79 回)

【地域医療連携パス委員会 CKD 班】※ Web 会議 (Zoom)

令和 4 年 6 月 28 日 (第 46 回) 9 月 30 日 (第 47 回)

令和 5 年 1 月 31 日 (第 48 回) 2 月 28 日 (糖尿病班との合同会議)

【地域医療連携パス委員会糖尿病班】※ Web 会議 (Zoom)

令和 4 年 5 月 17 日 (第 4 回) 令和 5 年 2 月 28 日 (CKD 班との合同会議)

【地域医療連携パス委員会リウマチ班】※ Web 会議 (Zoom)

令和 4 年 8 月 4 日 (第 19 回)

・診断未確定リウマチ性疾患の病診連携モデル構築プログラムワーキンググループ検討会

令和 4 年 4 月 13 日 (第 5 回) 5 月 18 日 (第 6 回) 6 月 15 日 (第 7 回)

7 月 13 日 (第 8 回) 8 月 24 日 (第 9 回) 9 月 14 日 (第 10 回)

10 月 19 日 (第 11 回) 11 月 2 日 (第 12 回) 11 月 16 日 (第 13 回)

12 月 21 日 (第 14 回)

令和 5 年 1 月 18 日 (第 15 回) 2 月 22 日 (第 16 回) 3 月 22 日 (第 17 回)

《地域保健センター部》

地 域 保 健

① 別府地域保健委員会

「別府地域保健委員会」は昭和44年に県下で初めて発足して以来、別府市の保健行政を支えてきている。この間、医師会は会員の協力のもと、主導的な立場から行政に対し保健・医療・福祉の幅広い分野で支援と助言を行ない、地域の保健医療活動の充実・発展に大きく貢献してきた。

平成16年6月に別府地域保健委員会総会で設置が承認された「別府地域保健運営委員会」は毎月1回開催され、行政側と協議を重ね、保健行政に関して医師会の意見を述べることにより市民の健康増進に寄与している。

各小委員会活動については平成24年度より食育をテーマに妊婦・乳幼児・児童生徒・成人・高齢者のライフステージごとに教育・相談・指導を目的に食育推進小委員会が追加された。

別府地域保健委員会

令和4年8月23日 別府地域保健委員会総会（ハイブリット開催）
8月30日 大分県地域保健協議会総会

別府地域保健運営委員会

令和4年4月26日・5月26日・6月30日・7月29日・8月29日・9月26日・10月28日・
11月21日・12月27日
令和5年1月23日・2月27日・3月27日

各小委員会

1. 母子保健小委員会（令和4年7月28日）

母子健康手帳の交付、訪問指導の実施、健康診査（乳幼児集団健康診査）の実施、健康相談、教育の実施、医療対策事業（未熟養育医療の給付、不妊治療費等助成事業）、保健所療育事業、育児不安フォローアップ事業、ヘルシースタートおおいた推進事業

2. 学校保健小委員会（令和4年8月1日）

児童・生徒の生活習慣病予防健診、小児生活習慣病健診事後指導、たばこ対策、思春期対策、定期健康診断結果

3. 健康づくり対策小委員会（令和4年8月2日）

健康増進法に基づく保健事業（①健康手帳交付、②健康教育、③健康相談、④健康診査、⑤訪問指導）、各種がん検診（受診者数、要精密者数）特定健康診査・特定保健指導（受診者・受診率・推移）

4. 感染症予防小委員会（令和4年7月27日）

予防接種年度別実施状況、MR 予防接種率、予防接種の普及・啓発、平成29年度一般結核検診状況・結核検診要精密者の状況

5. 歯科保健小委員会（令和4年8月4日）

歯のコンクール、母子歯科保健（1歳6カ月、2歳6カ月、3歳5カ月）、健康教育、健康相談、成人老人歯科保健、妊婦歯科健診、公立保育所・公立幼稚園・小学校でのフッ化物洗口の取組み、歯と口の健康週間行事、各小学校へのポスター、チラシ配布啓発事業

6. 救急医療対策小委員会（令和4年7月29日）

休日在宅当番医制実施事業（初期救急医療）、第二次救急病院群輪番制事業（8医療機関が輪番制で実施）、小児救急医療支援事業（小児第二次救急医療）、小児初期夜間救急医療事業（夜間こども診療・夜間こども薬局）、休日等歯科診療事業、救急搬送状況、献血の普及・啓発

7. 精神保健対策小委員会（令和4年8月3日）

自殺予防対策（自殺予防の普及・啓発、ゲートキーパーの育成、地域での連携体制の構築、地域における相談機能の充実）、予防対策に向けた啓発、取組み

8. 食育推進小委員会（令和4年7月25日）

妊婦・乳幼児・児童生徒・成人・高齢者のライフステージごとに教育・相談・指導を実施。また、各世代共通として広報等の実施。

② 予防接種

令和4年度は、前年度より引き続き新型コロナワクチン接種が行われ、オミクロン株対応のワクチンによる接種が行われた。4回目や5回目の接種ということもあり、接種を希望されない方が増え、接種率も年度後半となるにつれ下がっていくこととなった。次年度は、春接種と秋接種の2回となり、春接種は、医療従事者と高齢者および基礎疾患を持つ方が対象となり、その他の5歳以上の住民は秋接種となることが示された。また、高齢者対象となる年齢が60歳から65歳へ引き上げられるため、多少の混乱が予想される。秋接種に関しては、詳細がまだ決まっていないため、判り次第、Web説明会を開催し、情報提供を行っていききたい。

一方、定期接種は今年度から子宮頸がんワクチンの9価（シルガード9）が定期接種に追加された。また、4種混合ワクチンも生後2ヶ月からの接種が可能となるなどの変更があった。今後は5種混合ワクチン（従来の4種混合ワクチンにプラス Hib ワクチン）の開発が進んでいる。

以上のように様々なワクチン接種に関する情報は、判り次第、いち早く会員に対して情報提供を行っていく所存である。

地 域 医 療

令和元年11月に中国武漢で新型コロナウイルスの発生が確認され、同年12月31日に最初に世界保健機関(WHO)に報告された。その後、元年から翌2年にかけて発生した中国武漢でのアウトブレイクにおいて病原体を調査している中国・国家衛生健康委員会(NHC)専門家の鍾南山グループ長は、広東省でヒトからヒトへの感染(ヒト→ヒト感染)が確認されたと発表され、大分県では令和2年3月に初めて確認されて3年と3ヶ月が過ぎようとしている。全国で感染した人は累計で3,356万人(4/13地点)を超え、死者は74,182人を超えている。大分県では感染した人は累計で304,095人(4/13地点)を超え、死者は774人を超えている。

政府は令和5年5月8日以降に感染症分類を2類から5類へ移行することを決定し、感染者の就業制限はなくなり、行動制限もこれまでよりは弱まるが、医療費は一部で自己負担が発生する。経済への影響も少なくなり、国の財政負担も減るが、対応を変えることによる感染拡大、あるいは医療ひっ迫のリスクも懸念される。

また、厚生労働省の専門家会合ではインフルエンザに比べて「新型コロナウイルスの方がはるかに強い」と指摘されている。流行時期も、主に冬に起きるインフルエンザと違い、新型コロナウイルスは予測が困難で人の行動に大きく左右される。一方、重症化率については厚生労働省が公表したデータでは大きな差は見られなかったが専門家からは「集計方法が異なり、比較は難しい」という指摘が出ており、死亡者の数も厳密に比較するのは困難だが、インフルエンザが年間3,000人程度に対し、去年の新型コロナウイルスの死者は30,000人を大きく超えているという指摘がある。治療薬の供給体制も、新型コロナウイルスはインフルエンザほど整っていないこともあり現段階で新型コロナウイルスがインフルエンザと同じ程度の感染症と言い切ることは難しい。

新型コロナウイルスは先が見通せないウイルスであるからこそ、2類、あるいは5類といった類型に捉われすぎず、仮に類型が変わったとしても、ウイルスの脅威は変わらないためその点を1人1人が強く意識して行動できるのか。その時々にあった対応を考えていくことが重要だと指摘している。

新型コロナウイルスがもたらした災禍から脱し、「ウイズコロナ」を定着させ、以前の生活に戻っていけることを望んでいる。

このようないつ起こるか分からない災害に備え、地域医療支援として、住民に対し、医療機関が連携して何ができるかを検証し、安全で質の高い医療の提供だけでなく、災害時に必要な医療情報の提供や情報伝達ができる連携網の構築を行政にも働き掛け、積極的に進める必要がある。光ファイバーで医療機関を結んだ「ゆけむり医療ネット地域医療連携システム」が開始12年目を迎え、地域医療の支援ツールとして、災害と医療をテーマに新たな仕組みによる質の高い医療と情報の連携が期待できる。

令和4年度も市民救急フォーラムは昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大対策のため中止となった。

健診・検査

平成 22 年に西野口町の自衛隊保養所「スパシオン」跡地に別府市と三師会（医師会、薬剤師会、歯科医師会）の協力により、健康づくりの拠点複合施設として別府市保健センター「湯のまちけんこうパーク」がオープンし、健診と夜間こども診療部門が移転してから 13 年が経過し、令和 4 年度もここで業務を行った。

平成 20 年度より始まった特定健康診査（特定健診）が、30 年度を第 3 期として新たに 5 年計画で 5 年目を迎えた。計画期間の実施率の目標は特定健診・保健指導の実施率をそれぞれ 70%・45% に維持することを国が掲げている。別府市国保では受診勧奨を行っているが、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大対策の影響があり受診率が伸び悩んでいる。

協会けんぽ生活習慣病予防健診は、令和 3 年度は 2,271 件であったが、令和 4 年度は 2,035 件で 236 件の減となり、人間ドックでは令和 3 年度は 34 件、令和 4 年度は 27 件で、7 件の減となった。

労働安全衛生法に基づく事業所検診は、令和 3 年度は 3,840 件であったが、令和 4 年度は 4,054 件となり、214 件の減となった。

協会けんぽ生活習慣病予防健診の収入は、令和 3 年度は 33,519,478 円に対して、令和 4 年度は 29,493,710 円で 4,025,768 円の減収となった。

人間ドックの収入は、令和 3 年度は 770,952 円に対して、令和 4 年度は 551,800 円で 219,152 円の減収となった。

事業所検診、別府市職員健診関係、病医院従業員・職員健診の収入は、令和 3 年度は 23,879,794 円に対して、令和 4 年度は 28,544,970 円で 4,665,176 円の増収となった。

医師国保健診、歯科医師国保健診、原爆被爆者健診等の生活習慣病健診の収入は、令和 3 年度は 2,201,218 円に対して、令和 4 年度は 2,607,480 円で 406,262 円の増収となった。

別府市がんセット検診、住民検診、特定健診関連の収入は、令和 3 年度は 38,086,537 円に対して、令和 4 年度は 39,295,151 円で 1,208,614 円の増収となった。主な要因はがんセット検診の受診者は減だったが、特定健診（集団）の回数を増やしたため増収となった。

学校検診と心臓検診（委託料収入）の収入は、令和 3 年度は 12,391,778 円に対して、令和 4 年度は 12,458,660 円で 66,882 円の増収となった。

予防活動収入は、令和 3 年度は 1,516,120 円に対して、令和 4 年度は 1,610,020 円で 93,900 円の増収となった。

機器共同利用は、令和 3 年度は 255 件、2,347,397 円に対して、令和 4 年度は 235 件、1,566,071 円で 781,326 円の減収となった。

特定保健指導は、大分総合健診センター、大分県厚生連健康管理センター、医師会地域保健センターの 3 機関で行っているが、令和 3 年度は 292 件、2,246,895 円に対して令和 4 年度は 233 件、1,739,621 円で 507,274 円の減収となった。

健診事業の利用収入の総計では、令和 3 年度は 114,818,649 円に対して、令和 4 年度は 109,761,198 円で 5,057,451 円の減収となった。（補助金、繰入金、委託料収入等を除く）

令和 4 年度は新型コロナウイルス感染拡大対策のために令和 3 年度より引き続き別府市からの PCR 検査委託事業や東部保健所からの PCR 検体回収及び濃厚接触者の検体採取・PCR

検査委託事業などの委託料収入があり、会員から一般検査での PCR 検査依頼も含めると 260,320,048 円となり、健診業務だけでは減収だったが新型コロナウイルス関連の委託料収入で 255,262,597 円の大幅な増収となった。

令和 4 年度に健診で発見された、がん症例は、肺がん 0 名、胃がん 0 名、乳がん 3 名であった。肺がん・胃がん・乳がんの発見にご尽力いただいた読影委員会は、令和 3 年度は胸部班 15 名でのべ 215 回、胃部班 9 名でのべ 187 回、マンモグラフィー班 6 名でのべ 127 回の読影をして頂いた。受診者に対しては例年 3 ヶ月後に見直しと精密検査勧奨を行っている。

令和 4 年度の二次精密検査受診率は胃部 X 線 52.0% (令和 3 年度 71.2%)、胸部 X 線 38.9% (同 45.1%) 及び心電図 30.9% (同 56.8%)、マンモグラフィー 70.4% (同 91.0%) となった。

令和 5 年 4 月 1 日現在のため 1 月～3 月の二次受診の結果が反映されていないため低い数字となっている。(前年度比較は会報の各読影委員会報告を参照していただきたい)

検査に関しては平成 18 年度よりファルコ社との 5 年契約 3 度目 15 年間の契約が令和 3 年 3 月で満了を迎え、鋭意検討した結果、令和 3 年の 4 月から BML 社と外注契約をしているため、検査部門が廃止され、健診部門へ統合された。依頼検体は BML 大分営業所で検査され、特殊な検査については福岡ラボで行っているため緊急検査に時間がかかるなどの要望が会員からあり令和 3 年 10 月からスモールラボを開設し、機器と試薬は BML が持ち、検査業務は健診部門の検査技師 1 名が輪番で限られた項目(下記参照)のみを検査している。

生化学的検査	肝機能 (AST (GOT)・ALT (GPT)・ γ -GTP・総ビリルビン)、 電解質 (ナトリウム・カリウム・クロール) 腎機能 (尿素窒素・クレアチニン)、膵機能 (アミラーゼ)、CRP
血液学的検査	末梢血液一般、血液ガス、血沈
尿・糞便等一般検査	尿定性

集配業務については BML が担うと検体以外の封書などがコンプライアンス的に預かれないことから医師会で集配を運営し、今までと同じように会員からの封書などが預かれるようにした。

令和 3 年 6 月より無症状者が予約せずに無料で検査を受けることができる「別府市 PCR 検査センター」が市内の旧山の手中学校の敷地内で開設し、検体採取と抗原検査は県内企業の「アドテック」が無症状者のモニタリングも兼ねて担当し、遺伝子増幅検査を令和 4 年度も医師会地域保健センターが担当した。

開設時間は 10 時から 19 時まで受付し、抗原定性検査は約 30 分、遺伝子検査は午後 3 時までに受け付けた検査は同日 19 時ごろまで、それ以降のものは翌日正午までに結果が判明する。検査結果の通知については結果が陽性だった場合のみ別府市 PCR 検査センターから本人に電話で連絡する運用で令和 4 年度も行った。また、会員からの依頼検体も昨年引き続き LAMP 法と RT-PCR 法で検査を行った。

検査状況は令和 3 年 6 月 23 日から令和 5 年 3 月 31 日まで 68,117 名が検査をし、陰性が 33,566 名、陽性者は 520 名となっている。地域保健センターの職員が担当し、検査技師の正

学 校 医

本年も昨年度同様に新型コロナウイルス感染症の勢いが衰えず、学校医活動も引き続き影響があった。

更には、第6波に始まった若年層への感染が引き続き起き、学校でのクラスターが発生し、年明けからインフルエンザの集団感染も発生した。

会議は、徐々に現地開催を行うようになっており、全国学校保健・学校医大会は現地開催とWeb開催のハイブリッド開催、大分県医師会学校医部会定例総会は第8波の真ただ中のため書面決議、別府市学校保健大会は感染状況を鑑み、功労者表彰式および記念撮影のみでの開催となった。

令和5年1月11日 大分県医師会学校医部会定例総会（書面決議）

2月1日 令和4年度別府市学校保健功労者表彰式

産 業 医

今年度は入・退会などで、合計81名の認定産業医が所属している。

産業保健事業については、平成26年4月より産業保健センター事業、地域産業保健事業、メンタルヘルス対策支援事業の3事業が一元化され、大分県中部地域産業保健センターとして、産業保健活動総合支援事業を実施しているが、令和4年度も引き続き、別府市医師会が本事業を受託した。

大分県中部地域産業保健センターには、代表として別府市医師会長、運営主幹として担当理事が委嘱されており、事業の目的・事業内容・方法等は下記の通りであるが、本会では令和5年度に医師会館の旧施設解体および改修工事を予定していることから、センターの事務所スペースの確保が困難となるため大分県中部地域産業保健センター事業は大分郡市医師会に移管し、本会を所在地とした事業は最終年度となった。

大分県医師会主催の産業医研修会については、昨年度に引き続きテレビ会議システムを利用した研修会が始まり、本会では合計4回の開催について会場提供というかたちで協力した。3密対策として会場の収容人員を半数にした20名に制限しての開催とはなったが、大分県医師会館から配信される内容を視聴するという形式は、参加者が日常の診療後に大分県医師会館まで出向かなくてよいため、参加者からは概ね好評であった。

ただし、サテライト会場という制限があるため、スライド・映像の共有、音声の調整、質疑応答の際の対処など、大分県医師会館と同じ条件での聴講を担保するためには、今後、万全な環境準備が求められる。

また、行政を含め事業所から産業医の推薦依頼があった場合は都度理事会に諮り推薦者を検討しており、今年度は2社からの推薦依頼があった。

【令和4年度 地域産業保健事業・概要】

事業内容：産業医等の選任義務のない50人未満の小規模事業場の事業主および労働者に対し、労働者の健康管理等の産業保健サービスを実施する事業

①健診後の特定健康相談

- 健康診断結果に基づく医師の意見聴取
- 脳・心臓疾患のリスクが高い労働者に対する保健指導
- メンタルヘルス不調の労働者に対する相談・指導

②長時間労働者に対する面接指導

③高ストレス者に対する面接指導

実施方法：労働者からの依頼を受け、労働者の利便性を考慮しながら、協力を申し出ている登録産業医へコーディネーターから日程調整を行う。

大分県中部地域産業保健センター運営協議会（紙面開催）

大分産業保健総合支援センター

令和4年7月7日 産業医研修会（於：別府市医師会）

9月5日 産業医研修会（於：別府市医師会）

大分県医師会

令和4年8月19日 第1回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

9月29日 第2回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

10月21日 第3回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

12月13日 第5回産業医研修会（於：別府市医師会 テレビ会議）

健康スポーツ医

健やかに生き生きとした生活を送るためには、適度な運動・スポーツを行うことが必要不可欠であるが、運動・スポーツは生活習慣病予防や介護予防などに有効だけでなく、有疾患者や要介護者、障害者においても、適切に行うことで病状の悪化予防や改善、生活の質の維持・向上に有効となり得る。

このため、意識的に運動・スポーツに取り組むことは、健康の保持だけでなく、将来的な要介護状態を回避するためにも重要であり、スポーツを通しての健康維持と増進が必要不可欠である。

スポーツ庁では、「医療と連携した地域における運動・スポーツの習慣化」を提唱しており、誰もが身近な地域で安心してスポーツを楽しめる環境整備を推進しており、別府市でもアプリを使用した「別府市みんなで健活ポイント事業」を展開しているが、従来以上にかかりつけ医、健康スポーツ医、学校医、産業医との協力・連携が重要になってくることは言うまでもない。

今年度は秋にFIFAワールドカップカタール大会、3月にワールドベースボールクラシックが開催され、令和5年度にはラグビーワールドカップ・フランス大会、令和6年度にはパリオリンピック・パラリンピック等、国際的スポーツビックイベントが相次いで開催されることから、国民のスポーツに対する関心と意識はより一層高まることが予想されるが、これにともない生涯スポーツの観点からも地域社会において健康スポーツ医に求められる責任や期待も大きなものになってくるといえる。

本会における令和4年度の日医認定健康スポーツ医は、入会・退会・更新等を含めて、合計13名となっており、様々な場面において広く健康スポーツ医活動について研鑽を深め、包括的な健康スポーツ医活動を行っていただいているが、単位更新については、大分県内で開催される認定再研修会の機会が少ないという問題もあり、先生方には県外で単位修得していただくというケースも少なくない。

日本医師会認定健康スポーツ医制度は、更新要件として、再研修会の受講修了だけではなく、健康スポーツ医としての活動（学校、職場、地域等におけるスポーツ医学の立場からの指導・教育・診療活動等）が義務付けられているが、会員の増加や単位修得に関しては、別府市医師会主催で再研修会を開催するなど、これまで以上に努力していく必要がある。

令和5年2月25日 令和4年度大分県医師会講演会（スポーツ医学）

初期救急医療事業

夜間こども診療の令和4年度を受診者数は2,269人（令和3年度2,506人）で、前年度より237名の減となり、平成16年の夜間こども診療開始から過去2番目に低い受診者数となった。

一昨年度から変わらず新型コロナウイルス感染症の影響を受ける形となり、今年度も本来であれば大幅な赤字を記録するところであったが、今年度も市の援助を頂けたことにより何とかしのぐことができた。新型コロナの5類移行後もこの様な状況が続くか予想もつかないが、存続を希望

する別府市を含む東部医療圏域の市町村と協力し、運営維持を行っていく所存である。

二次医療機関への転送は83件（令和3年度83件）と昨年と同数であった。

疾病によるものが55件（令和3年度44件）、外傷などの外的要因のものが28件（令和3年度39件）と昨年度より疾病は11名の増、外傷は11名の減となった。

毎月第1日曜日に地域保健センターで診療を行っている休日内科診療は、本年で6年目となったが、こちらは新型コロナウイルス感染症流行のため受診者数が増え、今年度は185名（令和3年度99名）と前年度と比べほぼ倍の86名の増となった。

今年度も、大分県からの委託を受け、旧野口病院の駐車場をお借りし、発熱外来トリアージセンターを令和5年3月31日までの日・祝祭日の午前9時より午後1時まで診療を行った。令和2年11月22日の開設から延べ2,550名の受診があり、陽性者は1,157名。第7波・第8波のピーク時には90名の受診があるなど、在宅当番医を補助する役割を果たせたと思う。診療に携わって頂き、ご協力頂いた26施設の医師19名、看護師16名、受付・医事業務19名の方には改めて感謝申し上げる次第である。

With コロナの方針からマスク着用も解除され、5月8日をもって新型コロナ感染症も2類から5類へと変更される。別府市内の少子化は進んでおり、高点数である5歳未満の受診者が減り、大人と変わらない点数となる6歳以上の受診者数が増えつつある。

夜間こども診療の運営に関し、参加して頂いている先生方とも協議し、また別府市の協力を得ながら経営の安定化を進めればと考えている。

令和4年10月17日 第1回初期救急医療事業運営連絡会

12月19日 第2回初期救急医療事業運営連絡会

令和5年3月8日 第3回初期救急医療事業運営連絡会

《看護教育部》

看護学科（2年課程）

看護学科2年課程は、2年生（36回生）は27名が進級し、留年生3名を合わせて30名でスタートした。3年生（35回生）は25名が進級し、25名でスタートした。令和4年度は全学年で成績不良や家庭の事情を理由に退学したものは7名であった。

令和5年度の新3年生（36回生）は、留年生1名を含め27名でスタートする。

令和4年4月の3年課程への課程変更に伴い、令和4年度より看護学科2年課程の入学者はいない。課程変更を行っていくにあたって、本会より多額の補助金繰入が必要となっている。

令和4年度第112回看護師国家試験は2月12日に行われ、35回生21名が受験し21名が合格であり、合格率100%となった。全国平均は90.8%であった。

令和5年度で看護学科2年課程は閉科となるが、当看護学校を卒業した看護師は地元への就職率が非常に高く、長年にわたり地域医療に貢献してきた。質の良い看護師養成のためには、優秀な指導者の養成・確保と環境整備は重要な課題である。教員の数の充実と定期的な指導者養成プログラムへの参加、適正な講師料設定による人材確保など今後も努めていきたい。

会員の皆様の貴重な援助を無駄にしないよう、最後の学年となるが、よりレベルの高い看護師を育成していく努力をしたい所存であるので、ご指導ご鞭撻をお願いする。

令和4年4月1日	前期始業式
7日	2年生：健康診断（採血・採尿・胸写）
5月7日	2年生、3年生：看護の日及び避難消防訓練
31日	3年生：模擬試験
6月1日	3年生：健康診断（採血・採尿・胸写）
18日	2年生：健康診断（内科診察）
7月23日	3年生：健康診断（内科診察）
8月4日～28日	3年生：夏季休暇
8月7日～25日	2年生：夏季休暇
8月21日	中四九地区医師会看護学校協議会（オンライン）
8月27日～9月10日	2年生：前期試験
9月20日～22日	2年生：人間関係論宿泊研修（学内で集中講義に変更）
10月1日	3年課程推薦入学試験 社会人入学試験
24日	3年生：模擬試験
11月5日	3年課程一般一次入学試験
20日	3年生：大分県病院学会出席（別府ビーコンプラザ）
12月5日～22日	2年生：基礎看護実習
5日	3年生：模擬試験
14日	3年生：後期試験
19日	3年生：模擬試験
22日～令和5年1月3日	3年生：冬季休暇

25日～令和5年1月4日	2年生：冬季休暇
1月10日	3年生：模擬試験
1月17日	3年生：模擬試験
7日～19日	2年生：後期試験
23日	3年生：模擬試験
23日～25日	3年生：保育所実習（3日間）前半
30日	3年生：模擬試験
1月30日～2月1日	2年生：保育所実習（3日間）後半
2月1日	卒業判定会議
7日～8日	2年生：母子保健実習
12日	第112回看護師国家試験
13日	2年生：領域別実習開始
27日	3年生：看護観発表
3月2日	卒業式
22日	単位修得判定会議
25日	全員登校日(成績表配布)、学校長より単位未修得者への言い渡し

看護学科（3年課程）

令和4年4月1日（金）、課程変更および校名変更後 第1回目となる 別府市医師会立別府青山看護学校入学式が行われ、第1回生35名(内男子9名)の入学を許可した。新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴い感染対策を徹底する中、保護者においては別室オンラインによる参加をお願いした。式後には保護者説明会にて、学校長の挨拶とともに学校の沿革や課程変更に至った経緯、第1回生を迎え入れる喜びなどについてお話しし、教職員一同新たな覚悟をもって令和4年度をスタートさせた。

令和4年度は、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症の流行により、その対応にも追われた一年でもあった。予定していた宿泊研修は日帰りへと変更し、その後も基本的な感染対策を徹底する中、罹患するなど対象となった学生に対してはICT支援者の助言のもと遠隔（オンライン）により受講の対応をした。Wi-Fi環境の整備、Office365の導入、Web教材の導入など、新課程設立に向けて準備してきたことを大いに活用した。同時に、教員は情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業の展開にも力を入れた。この一年をとおし、学生はICTを活用した学習環境にも慣れ、日頃の学習に加え、課題の提出やクラスの伝達などが円滑に行われるようになった。

10月には、かつて多くの看護学校で行われてきた戴帽式を“継灯式”として挙行し、学校長、担当理事、教職員、オンラインによる保護者見守りのもと、学生たちは厳かな雰囲気の中ナイチンゲールよりろうそくの灯を受け継いだ。その後まもなく、それぞれに気持ちを新たにして初めての病院実習に臨んだ。この臨地実習は学生にとって最も印象に残るイベントのひとつもなった。その他、各種行事も滞りなく行われた。中でも、12月に実施したクリスマスイベントは学生の印象にも残っているようである。このイベントでは、地域・在宅看護論実習Iで

お世話になった施設に伺い、学生のハンドベル生演奏によるクリスマスソングをプレゼントした。施設の方にも温かく迎えていただき、印象深い活動となった。その他、自治会レクリエーション(スポーツ大会)などでも学生の生き活きとした様子を見ることができた。学生からは、このような交流ができる活動を増やしたいといった声もきかれ、過密なカリキュラムの中とはいえ学校生活を楽しむことができていることが伺えた。

学生の状況としては、これまでの准看護学科・看護学科(2年課程)との違いもみえた。多くの学生が高等学校新卒であることや卒業校の状況の違いなどから、2年課程で教鞭をとってきた講師からは、教授内容・方法について検討が必要であることや、それらをふまえ次年度の準備に向けたといった声も多く聞かれた。静かな受講で反応が感じられにくい学生であるが、レポートなどの内容からは考えたことを文章化する力や、理解する力が備わっていることが分かり、基礎的学力が定着している学生が多いことがわかった。一方、数名の学生については終講試験で思う様な結果を出すことができず苦労している。そのうち3名については1単位の未修得科目があり、次年度再履修の対象となった。35名の入学後1名の退学者があり、34名で新年度を迎える運びとなった。

新課程で始まった令和4年。昭和30年大分県下第1号准看護師養成所開設当時の理念を受け継ぎながら、教職員一同、今後も地域医療の担い手として能力を発揮できる有能な人材の育成に努める所存である。今後も、引き続き、会員の皆様のご指導をよろしくお願いしたい。

令和4年4月1日	入学式
1日～5日	新入生オリエンテーション
8日	健康診断(採血・採尿・胸部X線・身体計測)
19日	宿泊研修(日帰りに変更)場所:平成令和の森スポーツ公園
5月7日	看護の日・避難訓練
18日	健康診断(内科健診)
5月30日～6月10日	地域・在宅看護論実習I
7月7日	普通救命講習(別府市消防本部)
9日～8月7日	夏季休業
7月30日・31日	オープンキャンパス(オンライン)
8月21日	中四九地区医師会看護学校協議会(オンライン)
10月1日	推薦・社会人入学試験
7日	継灯式
10月24日～28日	基礎看護学実習I
11月4日	自治会レクリエーション(スポーツ大会)
5日	一般一次入学試験
12月23日	クリスマスイベント(施設訪問)
12月24日～令和5年1月9日	冬季休業
2月4日	一般二次入学試験
3月15日	人権学習I(別府市人権啓発センター)
3月18日～4月2日	春季休業
3月25日	学校長申し渡し(単位未修得者)

看護職研修会

看護職研修会は別府市医師会の医療機関で働く看護職の資質の向上等を目的として、実行委員会が研修を企画、運営をしている。実行委員は、3年毎に別府市内の医療施設より選出していただき、計6名が年に数回委員会を持ち活動している。

昨年度、内容の縮小、時間の短縮で開催した「フィジカルアセスメント」講習会であるが、時短で実施する場合の効果、懸念される新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ、講師と相談したうえで、令和4年度は見送ることとした。

令和4年度に予定していた看護職研修会行事および実行委員会は以下の通りである。

I. 予定されていた研修会

① フィジカルアセスメント（呼吸器・循環器・消化器）

講師：大分県立看護科学大学 看護アセスメント学研究室
教授 藤内 美保先生

II. 実行委員会

① 第1回実行委員会

日時：令和4年6月11日（土）13：00～14：00

② 第2回実行委員会

日時：令和5年3月4日（土）13：00～14：00

《地域福祉部》

令和4年度の地域包括部門の実績については、以下のとおりである。

1. 訪問看護ステーション

(営業報告)

年間新規利用者数 26 名 (57 名) (以下かっこは、前年度)、修了者 44 名 (69 名) 年間利用者数の増減は - 13 名。月末利用者数平均 41.3 名 (57 名) 訪問回数平均 251 回 (329 回) 利用者数、訪問回数ともに著明減少となっており、職員退職が大きく響いた。

(会計報告)

年間事業収益 22,894,518 円 (31,355,274 円)、年間事業経費 22,351,795 円 (27,686,386 円)、年間事業利益 879,837 円 (3,668,888 円)、人件費は職員退職により減少したが、年間事業収益も著明低下したが、年間事業利益は黒字決算となった。

2. 居宅介護支援センター

(営業報告)

年間ケアプラン作成 1179 件 (1101 件) 認定調査 67 件 (61 件) 前年度よりも増加した。

(会計報告)

年間事業収益 13,547,917 円 (12,635,761 円)、年間事業費用 16,446,918 円 (13,883,155 円)、年間事業利益 - 2,652,939 円 (- 1,247,394 円)、人員が増加し案件数及び事業収益は増加したが、人件費も増加し、結果的に利益はマイナス幅が大きく増加した。今年度は、人員が増加するので、3 部門にきちんと影響を及ぼせるようなケアプランを多く作成できるかにかかっている。

3. ヘルパーステーション

(営業報告)

年間新規利用者数 21 名 (12 名) 終了 10 名 (13 名) 月末利用者平均 30.8 人 (30.4 人) 訪問回数平均 193.5 回 (192 回) で新規利用者数は増加し、月末利用者数と訪問回数は微増であった。少し、復活の兆しが見えてきたと考えるが、コロナ明けに期待がかかる。

(会計報告)

年間事業収益 7,192,858 円 (6,810,588 円) 年間事業費用 9,657,608 円 (9,257,325 円) 年間事業利益 - 2,283,660 円 (- 2,446,737 円) 事業収益は微増したが、人件費も増加し、年間事業利益は微減し赤字となった。

総評としては、地域福祉 3 部門ともに職員の退職が多く、人員がかなり少なくなり、3 部門の継続も危うい状態で、赤字となった。3 部門合計で、- 4,056,762 円 (- 212,990 円) と厳しい状況であるが、今年度は、主任ケアマネの伊藤氏を中心に、新体制で業務に挑んでいる。また、新規採用の職員が多くなり、職員応募にもかなりの手ごたえを感じているため新体制を温かい目で見守っていただけると幸いである。必ず、会員の皆様に納得していただける体制を組めるように小さなことも見逃さず、きちんと対応していきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

訪問看護ステーション

訪問看護ステーション利用状況

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	8	5	4	5	5	7	6	8	2	2	2	3
終了者数(名)	11	7	3	5	4	5	5	6	6	8	2	7
月末現在数(名)	58	56	57	57	58	60	61	63	59	53	53	49
訪問回数(回)	346	322	370	345	380	342	338	339	308	298	263	297
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	4	0	3	2	2	2	2	1	2	2	0	6
終了者数(名)	4	3	3	3	1	2	2	8	8	3	0	7
月末現在数(名)	49	46	46	45	46	46	46	39	33	32	32	36
訪問回数(回)	275	291	278	274	279	246	309	257	198	174	194	235

(活動内容)

訪問看護ステーション運営委員会

令和4年4月26日・7月26日・10月27日

令和5年2月17日

九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会

令和4年7月9日

精神保健対策小委員会

令和4年8月3日

居宅介護支援センター

居宅介護支援センターケアプラン作成状況

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	33	37	41	42	42	42	44	48	47	46	43	44
要介護2	16	16	17	17	15	16	16	15	16	18	17	16
要介護3	6	6	8	6	9	9	9	9	8	10	12	14
要介護4	6	6	9	9	12	11	10	10	10	8	6	5
要介護5	10	8	9	7	8	9	8	7	7	6	8	7
総計	71	73	84	81	86	87	87	89	88	88	86	86
予防介護(委託)	8	8	7	8	10	10	8	7	7	7	7	8
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	47	49	45	41	37	39	40	38	41	41	41	45
要介護2	18	15	17	24	26	22	27	26	26	23	21	22
要介護3	13	12	15	13	14	13	15	16	15	16	15	16
要介護4	4	3	2	2	2	3	4	3	6	8	6	6
要介護5	7	8	8	8	8	8	9	9	10	8	7	6
総計	89	87	87	88	87	85	95	92	98	96	90	95
予防介護(委託)	6	3	6	6	5	7	8	11	9	9	8	9

申請代行・認定調査

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(名)	5	3	4	6	3	5	5	7	6	4	5	8
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(名)	8	7	7	5	4	6	8	7	2	3	4	6

(活動内容)

居宅介護支援センター運営委員会(訪問看護ステーション運営委員会と同時に開催)

令和4年4月26日・7月26日・10月27日

令和5年2月17日

ヘルパーステーション

ヘルパーステーション利用状況

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	2	0	1	2	2	0	1	2	0	2	0	0
終了者数(名)	3	2	0	0	1	1	1	0	2	0	2	1
利用者数(名)	30	30	29	31	32	31	30	32	30	31	30	29
訪問回数(回)	192	179	189	214	207	187	195	195	188	170	178	205
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新利用者数(名)	3	2	0	5	2	3	2	0	1	0	0	3
終了者数(名)	1	0	2	2	0	2	0	2	0	0	0	1
利用者数(名)	29	30	28	30	32	31	33	30	31	31	31	33
訪問回数(回)	152	195	187	206	203	205	212	198	194	172	187	211

(活動内容)

別府市地域ケア連携システム会議

令和5年3月23日

ヘルパーステーション運営会議（訪問看護ステーション運営委員会と同時に開催）

令和4年4月26日・7月26日・10月27日

令和5年2月17日

介 護 保 険

介護保険についてもDX化が進み、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所との間で毎月行われているケアプランの一部情報（予定・実績）をデータ連携する「ケアプランデータ連携システム」が令和5年4月よりスタートするにあたり、様々な情報提供が行われた。

更に、名称の変更手続きや代表者変更の手付きの際、関係行政機関に届出書を提出していたが、行政手続きの簡素化および効率化の推進の観点から「業務管理体制の整備に関する届出システム」を稼働させるなどの変更が行われた。

「ケアプランデータ連携システム」については、業務の効率化がうたわれ、記載時間の削減や転記誤りの削減、従事者の負担軽減などが上がっているが、年間ライセンス料がかかり、場合によっては使用しているシステムの変更や整備が別途必要となることが予想される。

DX化を進めるにも、使用する者のパソコンスキルが必要になるため、慣れるまでには時間がかかることが予想される。

要介護認定の取扱いについて、新型コロナウイルス感染症の影響から従来の期間に新たに12ヶ月を合算する臨時的な取扱いが適用されていたが、別府市としては、「12ヶ月原則として有効期間満了日が令和5年3月31日までの被保険者までが適用」と変更され、令和5年4月1日以降に有効期間満了日を迎える方は通常通り更新手続きが必要になることに変更されるなど、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前の体制へと変更されることとなった。

介護認定審査会は、皆様方のご協力により引き続き変更なく引き受けて頂き感謝申し上げる次第である。今年度の審査会の開催回数及び審査件数は、別府市・日出町で日中・夜間合わせて267回開催され、8,698件が検討された。今後も、引き続きご協力をお願いしたい。

令和4年7月15日 第1回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会（Web）

9月16日 第2回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会 (Web)
11月18日 第3回大分県医師会医療保険地域福祉改善委員会 (Web)